

## 古坊中と麓坊中

2025年11月25日 於：阿蘇市坊中：西巖殿寺

佐藤 征子

### 第一部 古坊中

#### I 噴火口

1 「隋書」倭国伝：7世紀前後の日本・聖徳太子→遣隋使：5回派遣

「阿蘇山という山があり、その山の石が理由もなく、火を起こし天に接すると、民は異常とみなして祈りの祭りをを行っている。青く、鶏卵の大き  
さくらいの如意宝珠がある。夜は光り、魚の目玉のようだ」

(『改定 魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波書店)

\* 「南郷事蹟考」慶應2年(1866)長野村：長野内匠

阿蘇山：(前略)山中ニ如意宝珠アリト云其故ニ當郡中ハ闇夜ニモア

カシト云ヘリ

2 『大明一統志』明の永楽帝(1360~1424)

阿蘇山：壽安鎮国山：碑文を建立

\* 享保20年(1735)本草学者丹羽正伯(1691~1756)

細川藩に問い合わせ→現存していない

\* 橘南溪(1753~1805)医師「西遊記」

天明2年(1782)「阿蘇山」

(前略)大いなる堂あり。内に額あり、壽安鎮国山と書けり。是はもろ  
こしの帝より、むかし此山の靈異なる事を傳へ聞給ひて、この五文  
字をもて山を奉じ給ひしなり。堂は傾き損じたり。人はもとより住  
むべき所にあらず。むかし是より下つかたに寺院多くありといふ。

(後略)

(『日本庶民生活史料集成 第20巻』三一書房)

#### II 神霊池

##### 1 神霊池の異変

「日本後紀」：延暦15年(796)7月22日一神霊池涸減20余丈⇒早疫

「続日本後紀」：承和7年(840)9月21日一健磐龍命神霊池涸減40丈

「三大実録」：貞観6年(864)12月28日一健磐龍命神霊池沸騰

比売神嶺二石神顔崩

\* 源 俊頼(1055~1129)「散木奇歌集」

世にわびて浪たちまちに有るなれどあそのみ池の幣たてまつる

##### 2 天宮祝

①「阿蘇宮由来略」(『肥後国誌』)

：阿蘇友隆(1648~1718)宝永年中(1704~1711)草案

阿蘇山（中略）此山奇峻ニシテ草木ヲ生セス、天ニ中シテ儼峙スルヲ以ツテ天宮トモ云（中略）永長元年 3 月 15 日大宮司惟行殿堂ヲ修造シ古例ヲ以テ祠官笠忠久ヲシテ阿蘇山ノ祝タラシム、是ヲ天宮祝ト云フ

\* 永長元年（1046）阿蘇大宮司惟行 笠忠久を天宮祝に任命

## ②『大日本古文書 阿蘇文書之一 阿蘇家文書上』

9 号「平某下文」建久 6 年（1195）7 月 28 日

天宮祝忠次と阿蘇御峯住僧等の争い：阿蘇山居住僧侶の最古の史料

平某（北条時政）の沙汰

天宮祝忠次：御幣・神馬 住僧等：御花米

## 3 阿蘇社

山上の神池—上宮

麓・宮地—近津御宮：正平 11（1356）・下宮：天授 3（1377）

「阿蘇社年中神事次第写」（年月未詳）

（『大日本古文書 阿蘇文書之二 阿蘇家文書下』）

十二月初卯駒取の祭礼

天宮祝：21 日前より御嶽に籠る

肥後国府在庁の 33 人—御嶽から神馬で阿蘇大明神を下宮に迎える

阿蘇社の神官・権官—御嶽北門迄迎えに行く

屋立の女房（阿蘇大宮司の息女）

①下宮—籠屋で百日間精進

②初卯の日に二の御殿に移り、御嶽より御幸の大明神を接待

\* 江戸時代には行われていない

## III 宝池

1 加賀白山：泰澄

①「本朝神仙伝」大江匡房（1041—1111）：37 人の神仙

加賀白山の開祖：泰澄—阿蘇社参詣

池上に九頭龍出現→真体を示せと折伏：金色三尺千手観音

②泰澄：虎関師鍊著「元亨釈書」元亨二年（1322）

養老元年（717）加賀の白山の開祖

白山の頂上に緑碧の池：泰澄の念誦—九頭龍出現→十一面観音

神護景雲元年（767）86 歳で遷化

2 彦山座主・法蓮（木蓮）

①「彦山流記」建保 2 年（1213）

木練上人の阿蘇登山→彦山座主法蓮→改名木蓮

「八功德水」宝池・九頭八面の大龍→金剛杵

下山・山小屋→女人の誘惑→再登山→十一面観音

②小国北里家伝承：木蓮の剣

→正徳2年(1712)阿蘇山学頭坊神剣寄進状

(『大日本古文書 阿蘇文書之三 西巖殿寺文書』414号)

IV阿蘇山開祖：最栄

1 最栄読師：天竺より神亀3年(726)2月朔日来朝

①(年月未詳)「阿蘇山旧記抜書」(『西巖殿寺文書』252号 元禄8年(1695))

最栄の旧室：西<sup>にし</sup>巖<sup>のいわと</sup>殿寺=今の本堂：天竺毘舍利国より来朝

②「阿蘇山衆徒年行事書上案」

(『西巖殿寺文書』258号 元禄15(1702)年6月)

山号：阿蘇山 惣寺号：西巖殿寺 開山：最栄読師一天竺より来朝

2 比叡山慈恵大師の徒最栄

「阿蘇宮由来略」(『肥後国誌』)

天養元年(1144)8月3日：大宮司友孝の許可を得て阿蘇山に居住

十一面観音を彫刻安置して法華経を読誦→最栄読師と云う

\* 慈恵大師：比叡山第十八代天台座主(元三大師・角大師)

一明治4年(1871)黒川村に本堂移転一

外陣に木像二体安置→平成13年(2001)9月22日火事で焼失

V山上：僧徒集団

1 衆徒・講衆・行者・山伏

①衆徒：正平7年(1352)閏二月三日起請文「浄行持律之僧侶」

正平11年(1356)起請文「顕密勤行之祈祷僧」

②講衆：文中2年(1373)講衆規式

③行者(久住)：衆徒に忠節・修験兼帯⇒峰入り

正平7年(1352)二月四日起請文「久住等常住不断之行者」

15世紀以降 久住→行者⇒僧位・僧階は無

④山伏：修験一衆徒・行者の配下

山伏は行者の指揮に従って峰入りを行い、祈祷札などを配布

\* 山伏養福坊の石碑：高森町草部

永禄8年(1565)：草部と高千穂の境界争い

養福坊による草部の勝利を祈祷

2 三十七坊

衆徒17坊・行者9坊・講衆11坊

①講衆11坊→衆徒方6坊・行者方5坊⇒衆徒23坊・行者14坊

②衆徒・行者の坊一参詣者の宿坊

正平7年(1352)起請文：10歳以上60歳未満の女性・尼の止宿禁止

③兄阿蘇惟長一弟阿蘇惟豊対立

永正9年(1512) 惟豊勝利一行者方が味方

三坊職(陽泉坊・極楽坊・那羅延坊)を行者方へ

\* 衆徒 20 坊・行者 17 坊

\* 山伏は庵⇒数の史料はない⇒伝承では 52 庵或いは 62 庵

3 阿蘇山衆徒法事次第

『西巖殿寺文書 253 号』

\* 観音講 毎月 28 日

\* 誕生会 4 月 8 日

\* 乙護法講 1 月 28 日 於万福院

\* 鬼会五拾四人山伏

4 本堂造営棟別錢：文明4年(1472)

地区別造営料一(『阿蘇家文書下』485頁)：棟別 10 文

野部：54 貫 900 文 南郷：44 貫 50 文 小国：33 貫 860 文：30 貫 350 文

甲佐：22 貫 662 文 中山・海東：19 貫 300 文 砥用：17 貫 810 文 他

5 鹿渡橋

文明 10 年(1478) 造営

結橋の材料：坊別一長木 400 本・蔓 10 荷・綱 5 口・藤の綱 5 坊で 1 口

本橋の材料：坊別・庵にも割り当て

橋の造営：惣大工正賢・山伏 12, 3 人

橋賃：参詣者一免除・通行人一心付け

6 湯谷一湯屋(『西巖殿寺文書』215 号)

天授 3 年(1377)：1 貫文一湯屋棟上

文明 15 年(1483)：湯屋の材木注文

VI 阿蘇一山と阿蘇氏

1 寺社奉行

正平 6 年(1351) 衆徒起請文

阿蘇大宮司の配下⇒神事祈祷は懈怠なく

永享 3 年(1431) 阿蘇社規式

10 歳以上 60 歳未満の女性を衆徒・行者の住坊に宿すべからず

2 坊職安堵

阿蘇一山で決定⇒寺社奉行取次⇒阿蘇大宮司承認

阿蘇氏：矢部と南郷に分立⇒阿蘇大宮司家統一⇒坊の相続へ関与

文明 16 年(1484)：阿蘇惟忠の安堵状

VII 里坊

「阿蘇宮社家供僧由来」(「阿蘇家伝 三」)

里坊ハ南郷ニアリ是又古坊中ト云フ

1. 「南郷事蹟考」(『肥後国誌』)

上中村：栄師庵ノ跡一阿蘇開基最栄読師ノ墓アリ

2. 酒を醸造

「酒代日記」(『西巖殿寺文書』一八一号)

酒売買：正月より三月迄 33 文・四月中 44 文・五月より 50 文

新酒より極月迄は 25 文

Ⅷ阿蘇一山没落

1 大友氏の支配→島津氏の支配

天正 6 年 (1578) 大友宗麟 (義鎮)、島津義久に大敗 (日向耳川の戦い)

天正 11 年 (1583) 3 月：阿蘇大宮司惟将、衆徒新楽坊を和睦の使者とし島津氏に遣わす

天正 13 年 (1585) 7 月：阿蘇氏家老甲斐宗運 (御船城主) 死去

島津氏、阿蘇氏攻略開始

天正 14 年 (1586) 2 月：阿蘇大宮司惟光、矢部・浜の館より目丸山中へ

2 豊臣秀吉の九州進出

天正 15 年 (1587) 3 月九州進出⇒4 月肥後南関⇒5 月島津義久降伏

\* 4 月：阿蘇山寺院没落 (西巖殿寺文書 237 号「阿蘇山上宮奇瑞記」)

Ⅷ秀吉の朝鮮出兵

1 天正 20 年 (1592)

3 月肥前名護屋から朝鮮へ出兵

6 月：梅北の乱：島津家臣・梅北国兼⇒韋北佐敷城攻撃⇒失敗

11 月：背後に阿蘇惟光がいるという噂

⇒秀吉、阿蘇惟光に自刃を命ずる 於：花岡山

\* 阿蘇氏

阿蘇惟豊 (1493-1559)

息子一兄・惟将 (1520-1583)

弟・惟種 (1540-1584) \* 天正 11 (1583) 大宮司

惟種の息子一兄・惟光 (1582-1593) \* 天正 12 (1584) 大宮司

弟・惟善 (1583-1654)

：惟光は加藤清正の保護・弟惟善は小西行長の保護

2 慶長 3 年 (1598) 秀吉死去⇒朝鮮から撤兵

—添付資料—『古坊中』より

笈仏 (カラー写真)

図 9 古坊中地形図 (2)

\* 昭和 6 年 (1931) 11 月に熊本で陸軍特別大演習

昭和天皇—11月11日から19日まで熊本に滞在し地方行幸

11月17日阿蘇神社及び阿蘇山へ行幸。改修されたばかりの登山道を自動車で阿蘇山上へ

\*前年昭和5年6月に阿蘇登山道路の整備及び古坊中地形調査

本山又蔵氏「阿蘇山古坊中地形圖」作成

図版1「古坊中区中写真(1)」・図版2「古坊中区中写真(2)」

\*1957年12月24日撮影

表2 古坊中方形区画一覧表

図12 弘治二年(1556)逆修碑拓本

図13 古坊中出土遺物(1)

図14 古坊中出土遺物(2)

図版19 山上本堂の乙護法(1)(2)(3)・西巖殿寺の乙護法(4)

図版50 豪潮の宝篋印塔

図版51 豪潮の宝篋印塔実測図

## 第二部 麓坊中

### I 加藤清正の支配

#### 1 阿蘇神社と阿蘇坊中の復興

清正の判物宛先：慶長4年(1599)11月29日阿蘇大明神<sup>長善坊  
寺社中</sup>

衆徒20坊一上の坊：学頭坊・成満院・萬福院・大寶院・福満坊・得善坊・

#### 長善坊

中の坊：成道坊・娯楽坊・新楽坊・了覚坊・善性坊・浄光院

(宝永6年=1709浄教院と改める)・萬楽坊

下の坊：禮徳坊・大徳坊・成實坊・妙境坊・實門坊・福性坊

行者17坊一上の坊：道場坊・鏡観坊・鏡一坊・幸寶坊

中の坊：那羅延坊・陽泉坊・極楽坊・了忍坊・鏡善坊・妙圓坊・

圓達坊・慈眼坊

下の坊：了實坊・鏡珍坊・密教坊・圓教坊・幸密坊

#### 2 長善坊

\*「阿蘇宮社家供僧由来」(「阿蘇家伝三」)

西巖殿寺

長善坊：中坊也、然ルニ天正年中寺社散乱ノ時、此一坊残

リ留リ、神仏奉仕ノ功アリ、故ニ慶長再興ノ時ニ

其勞ヲ賞シテ上ノ坊ニ擬セシム

\* 文政6年(1832)3月

「阿蘇郡坂梨手永寺社堂宇御改帳」(永青文庫蔵)

阿蘇山長善坊末寺 坂梨村大山寺

清正公高麗責之砌、御利運之御祈禱拙寺先住長善坊契雅

法印江被仰付、無程御帰陣候、依之阿蘇開基被仰付

\* 『大日本古文書 相良家文書之一』

四七三 長善坊契雅書状

正月廿七日 蘭田殿宛(芦北:相良氏配下)

「使之山臥」—「嘉例之卷子(御家内平穩御祈禱)」届ける

=長善坊契雅は各地の武士と交流があった

\* 長善坊契雅の墓

善応寺観音堂に墓:文禄3年(1594)死去

## II 細川氏の支配

### 1 寺社領高

阿蘇宮社領高 989石6斗2升1升之内配分目録寛永10年(1633)正月7日

一高 358石3斗4升 神主

一高 166石5斗8升 社家中

一高 189石9斗2升 衆徒中

一高 160石8斗 行者中

一高 100石 御神事領

一高 4石7斗 霜宮分

一高 3石4斗 経坊

一高 1石5斗8升 鐘撞

一高 5石 大山寺

神主又次郎殿(阿蘇友貞)

阿蘇宮 長善坊

寺社中

\* 寛永14年(1637)天草・島原の乱(『肥後国誌』)

細川藩家老長岡監物(米田是季)・長岡佐渡守興長(松井興長)

\* 長善坊宛祈禱依頼

### 3 山伏

「肥後豊後御領内社数衆徒支配下山伏并社人山伏人数帳」

\* 18世紀初め永青文庫蔵 \* 山伏は「房」と記す

一衆徒方下山伏一

学頭坊一仙行房・鏡仙房 成満院一福蔵房・万智房・金光房・万祐房

万福院一玉泉房・本乗房・行蔵房・和泉 福満坊一善了房・福泉房  
得善坊一頼福房 長善坊一頼現房 成道坊一教覚房・明静房・実相房  
娯楽坊一円勝房・覚現房・円蔵房 了覚坊一行福房 福性坊一玉円房

\* ヤンボシ墓（衆徒方山伏）一阿蘇山上登山道の中腹

### 山上坊中万靈供養塔

文政7年（1824）学頭弘解法印の命で改葬

\* 墓石は山伏の坊事に古い順番に並んでいる

一坊名不明の墓もある一

\* 文政7年以降の死亡者も埋葬

福蔵坊・金光坊・鏡仙坊・福泉坊・頼現房・実相坊・仙行坊・

善了坊・真教坊・圓照坊・大蔵坊・行蔵坊・玉泉坊・常福坊・

円覚坊・幸乗坊・行福坊

一行者方下山伏一

道場坊一正現房 鏡観坊一鏡蔵房・長福 鏡一坊一行泉房・本了房

幸寶坊一教伝房 那羅延坊一大教房・覚祐房・養福房・了泉房

陽泉坊一頼円房 極楽坊一楽養房 慈眼坊一善住房・成円房

\* 天神山に行者と行者方山伏の墓が設けられていたが、国道57号

線の建設によって元の位置を動かされた墓もある

3 一山の衆頂・学頭坊

①衆徒と行者の対立

\* 行儀方式をめぐる対立一行者の素絹着用・戒壇

行者の追放

\* 藩主細川綱利：本寺替を東叡山に願

寛永2年（1625）：東叡山寛永寺の創設

\* 承応二年（1653）：山門（比叡山）正覚院末⇒東叡山寛永寺

一細川藩内：天台宗寺院は殆ど山門末

②衆徒内部の対立

棟梁・門葉の規範をめぐる対立⇒衆徒間の対立

③学頭坊職の強化

\* 貞享4年（1687）比叡山東塔南谷・禅林院大僧都舜敬法印⇒学頭職

衆頂・学頭坊に知行新規100石加増⇒学頭坊の下知に従う

\* 学頭坊舎

一総門 三尺ニ一丈 板葺

一閻魔堂 壹丈貳尺九寸ニ壹丈六尺

一乙護法堂 同断

一稻荷天神社 九尺五寸ニ七尺七寸

本門  
一 薬医門 老間ニ老間半

五龍水神

一鎮守堂 七尺五寸ニ六尺八寸

一護摩堂 式間半梁四間  
但老間ニ九尺ノ廊下 板葺

一客殿 三間半ニ九間  
但東方ニ三尺ニ六間之庇付

一仏間 式間半ニ四間

一玄關 式間半ニ式間半

一居間 式間半ニ四間  
但東方ニ三尺ニ式間半庇付

一客殿取合 九尺ニ三間半

一茶間 三間半ニ四間  
但西方ニ三尺ニ五間ノ板庇

一台所 三間ニ六間

一長屋 式間半ニ拾間

右何茂萱葺

④坊中の人別（安永3年=1774）

学頭坊

男女 57 人（4 人出家・3 人山伏・家来家族（男 27 人・女 23 人）

衆徒

男女 372 人（27 人出家・20 人山伏・家来家族（男 170 人・女 150 人）

行者

男女 239 人（21 人出家・20 人山伏・家来家族（男 180 人・女 80 人）

総人数 668 人：出家 52 人・山伏 43 人・家来家族 573 人

\* 豪潮の宝篋印塔

玉名・天台宗寿福寺の高僧・豪潮（1749—1835）\* 晩年、尾張で寂

文化元年（1804）7 月学頭坊が造立願⇒不許可 9 月再願で御免

文化 2 年に山上建立の願不許可⇒坊中に建立

4 細川藩による祈祷命令

五穀成就・雨乞・虫害風害除去

\* 延宝 6 年（1681）疫病流行

祈祷札 600 枚 阿蘇（衆徒 200 枚・行者 200 枚・社方 200 枚）

300 枚 藤崎宮

100 枚 祇園社

5 山上堂社：安永 2 年（1773）

本堂 (5間・9間) 内陣：十一面観音・不動明王・毘沙門天王

外陣：慈恵大師・最栄読師

中宮権現社 (8尺・1丈6尺)・山王権現二十一社 (7尺5寸・2間)・

天神社 (9尺・9尺5寸)・乙護法社 (8尺・1丈3尺 拜殿：2間・3

間)・役行者堂 (3間・3間)・不動小社・毘沙門小社・甲佐明神小社・

住吉明神小社・春日明神小社・伊勢小社・十社明神小社・天岩戸不動小

社・八幡小社・加茂小社・□天護法社・田鶴原小社・文殊堂・聖徳太子

堂・郡浦明神小社・荒神小社・祓川水神小社・乙姫小社・壺ノ護法堂：

山上打越水神社

\* 道標：阿蘇山上本堂道：西巖殿寺前

## 6 阿蘇修験

### ①慶長 18 年 (1613) 修験道法度

天台宗修験 本山派

真言宗修験 当山派

### ②阿蘇修験

行者と山伏は当山派修験

：寛永 5 年 (1628) 6 月 19 日書状

阿蘇神主一加藤越後万兵衛宛 (組頭)

阿蘇山行者、当山方に同行して峰入り

：寛永 7 年 (1630) 6 月 8 日書状

阿蘇神主惟善一当山派先達内山永久寺宛

内山永久寺に加藤忠広母の病気快癒の為に吉野大峰の峰入りに阿蘇

山行者鏡珍坊・了忍坊の同行を依頼

### ③阿蘇大峰入り一行者・山伏の峰入り

秋峰のみ

実施：元和 2 年 (1616)・元和 6 年 (1620)・寛永 2 年 (1625)・寛

永 8 年 (1631)・寛永 17 年 (1640)

明和 2 年 (1656)・寛文 2 年 (1662)・寛文 11 年 (1671)・延

宝 8 年 (1680)・元禄 5 年 (1692)・元禄 12 年 (1699)・宝永

7 年 (1710)

—中断—

\* 享保 9 年 (1724) 東叡山寛永寺より峰入り修行すべきと定書

享保 15 年 (1730) 再開

記録が残る峰入り

寛政 12 年 (1800)・文化 14 年 (1817)：学頭坊が同行・文政 12 年 (1829)

万延元年 (1860)・文久 2 年 (1862)

大峰修行：藤次に基づく

行者：大宿（一藁）大越家一全体の指揮

二宿（二藁）中越家・三宿（三藁）護摩先達

その他 寄宿・柴宿・宿先達

：麓坊中で最古の峰入り

元和2年（1616）大越家那羅延坊豪典

中越家慈眼坊禎慶・三宿了忍坊契祐

・行者の指揮に山伏が従う

・峰入り参加者は50人前後：三宿に分ける

・初めて入峰：新客

・三度以上入峰：先達

\*入峰の目的：天下泰平・国家安全・五穀豊穰・武運長久・子孫繁栄

\*入峰費用：細川藩 享保15年（1730）迄30石寄付

その後、銭3貫目・米20石

\*阿蘇大峰修行：7月29日駆入・9月3日駆出

\*峰入り日程：途中で天上掛道方と土路（泥）掛道方の分かれる

7月26日笈かざり：27日暇乞いー学頭坊・行者一藁：28日山上一

役行者堂・本堂で勤行・山上の諸堂社：29日駆入ー平川村：晦日住

吉村：8月1日山鹿大宮：2日岩野村：3日行者鏡観坊塚参拝（山

鹿市指定文財・鏡観坊の宝篋印塔）ー柳川領・矢部川一本分村：4

日法事：5日一本分から天上掛道方は室山へ、土路（泥）掛道方の

二手に分かれる：6日天上掛道方は水飲（水海）宿：7日～11日護

摩祈祷：12日空鉢の宿：13日岩屋止宿：14日竹原村：15日法事：

16日深山の宿：17日～21日護摩執行：18日相良観音参詣：22日

深山から揚枝（養枝）の宿：23小笹の宿、

\*土路掛道方は本分より水飲（水海）を経て深山で合流して隈府へ出

て小笹の宿から同じコース：8月晦日迄護摩供・新客灌頂：9月朔

日藍ヶ水宿：2日箱石峠・日の尾宿一夜半に登山・宝池巡りー化粧

ヶ宿で装束着替えー神変堂（役行者堂）・本堂で勤めを終え下山：

3日駈出：4日笈開き・学頭坊に報告：8日阿蘇社参拝

\*道筋の村々：酒迎一行者・山伏の檀那一村の堂で観音經など勤行

\*波野村米山の堂に文化14年（1817）の峰入りの札

\*日向佐土原の修験・野田泉光院「日本九峰修行日記」

『日本庶民生活史料集成 第二巻』1969年三一書房

文化10年（1813）阿蘇登山

成道坊の下山伏実相坊「ごま修行の間遠近参詣者無数」

\* 菊池郡隈府町の町人・嶋屋の日記（花岡興輝編輯『嶋屋日記』1987

年菊池市史編纂委員会）に峰入り見物の記事

明和7年（1770）8月朔日・寛政12年（1800）8月・嘉永2年

（1849）8月朔日「天保9（1838）年より12年ぶり」・万延元年

（1860）8月2日「天保9年より24年ぶり也、嘉永式酉八月より

12年ぶり也」

## 7 乙護法

古坊中時代、衆徒年中行事の日程に「乙護法講 1月28日 於万福院」

安永2年（1773）山上堂社に乙護法社（8尺・1丈3尺 拝殿：2間・

3間）学頭坊舎に乙護法堂（1丈2尺9寸・1丈6尺）

①京都大原の勝林院覚秀による天台宗清明関係文献「魚山叢書」

：乙護法講式・乙護法和讃所収

：元禄5年（1692）正月二十八日、万福院で乙護法講が行われた日に学

頭坊舜敬が書写して寄進

学頭坊舜敬、貞享4年（1687）比叡山から細川綱利が100石加増で

迎えた

②乙護法像：鎌倉時代～江戸時代

③乙護法の分布

北嶋雪山『国郡一統志』

成瀬久敬「新編肥後国誌草稿」を増補森本一瑞『肥後国誌』

長野内匠「南郷事蹟考」

\* 肥後の各地に信仰が広がっている

## 8 阿蘇参り

①「肥後国誌」

春秋彼岸ノ翌日ハ必ス御池ヨリ水湧上リ溢レテ山中高下トナク漲

ルコト暫時ニシテ又常ノ如シ此参詣登山ノ不浄ヲ洗ハシムト云傳フ

②参拝する人々の賑わいー商人達の小屋架け

宝永4年（1708）8月、衆徒成満院・万福院は山上時代、山上本堂前

の左右は元屋敷と主張⇒20年前迄は両院が指図して商人が小屋掛け

ー以前の様に指図したいと細川藩寺社奉行に願書⇒不許可

③左京（写経）が橋をめぐる伝説

\* 左京某という若者一橋の袂に小蛇一切り捨てようとするー飛龍と

なり雲隠れー若者は天地異変に慄き落命⇒左京が橋

\* 最栄が一字一石写経して埋めた⇒写経が橋

④口説きー盆踊り音頭・地搦き音頭

熊本：お清の阿蘇参り一橋を渡れず龍に変身：米屋の両親⇒売る時8

合升・買う時1升2合升⇒二舛使い：各地に伝わる

#### \* 町村史

『千丁村史』(1968)：元治元年(1864)若者中一路銀借用

『熊本市史』(1932)・『植木町史(1981)』=植木町垂水「大正9年9  
月起 阿蘇講帳」・『矢部町史』(1981)・『益城町史』(1990)・『御船町  
史』(2007)・『甲佐町史』(2013)：丸山学『熊本県民俗事典』(1965)

『里山通信 VOL.13号』(2005年11月25日発行 里山通信社)

### III 明治維新

#### 1 神仏分離

慶應4年(1868)閏4月4日太政官達

諸国神社ノ別当社僧ヲ還俗ノ上神主社人ノ称ニ転セシム

5月7日

阿蘇大宮司惟治一達の趣を衆徒・行者に伝えたいと申し出

6月16日

細川藩寺社奉行一学頭坊以下の取り扱いは寺社方が指図

#### 2 僧業と神勤

明治2年(1869)3月26日付寺社奉行の沙汰⇒4月12日阿蘇大宮司宛達

#### \* 僧業願

阿蘇山衆徒：学頭坊・成満院・新楽坊・万福院・了覚坊・大宝院・礼徳

坊・成道坊・万楽坊・浄教院

阿蘇山行者：円達坊

山伏：大教坊・円林坊

#### \* 神勤願

阿蘇山行者：鏡一坊・鏡珎(珍)坊・那羅延坊・幸宝坊

山伏：覚祐坊・養福坊・成円坊・楽養坊

明治3年4月：僧籙局⇒神仏混淆引分け一阿蘇山の号を禁止⇒鎮国山

明治3年(1870)8月

山上新社家：鏡一坊→一宮但見・鏡珎坊→宮岡松喜・那羅延坊→那羅尾繁・

幸宝坊→古嶋軍喜

\* 社家制度は翌明治4年5月廃止

明治3年12月太政官布告：社寺領上知令

⇒熊本藩12月15日：社寺録制定

学頭坊一五人扶持 元衆徒9坊・元行者方2名・山伏9房一二人扶持

#### 3 廃寺

①明治4年正月吉日：鎮国山本堂出仕記録：3月迄の記録

②明治4年7月廃藩置県⇒扶持引揚⇒廃寺・転住

\*成満院弘英改め谷帰一乙護法の厨子に墨書

今明治四年末当山諸坊廃寺御引揚ニ相成、仏体法器而已谷家ニ拜領、  
当仏殿ニ遷座、跡寺家敷戸長ヨリ入札売三拾二貫目、黒川組村備ニ  
相成候

：当仏殿一元衆徒方祈祷所 \*成満院跡⇒元阿蘇町立病院

\*元幸宝坊改め古嶋軍城（喜）一明治28年8月建立の墓石

住職タル者ノ好デ廃寺ヲ企テタルニ非ズ、好デ帰俗シタルニ非ズ、  
蓋シ時勢ノ然ラシム処ニシテ万止ム能ハザルヨリ出タル者ナリ

③宝物引渡し

明治4年11月

元鎮国山衆徒中宝物：神器一剣10本⇒阿蘇本社神殿

仏器⇒元鎮国山本堂内陣

内牧郷黒川組里正 甲斐蘇内

元鎮国山衆徒触頭学頭坊光徹事 佐々昇道

同衆徒成満院弘英事 谷 帰

同新楽坊栄観事 野村長太

同万福院弘英事 佐藤 弘

同大宝院俊晟事 得能自在

同了覚坊弘安事

覚 早見

同円達坊

蘇谷 巖 \*行者から衆徒に改める

同礼得坊弘門事

下田新次郎

同鎮国山山伏金光坊

児玉金蔵

同実相坊

実 惣平

同鏡泉坊

稲実丑吉

同円林坊

小嶋新耕

同仙行坊

井芹仙八

同大仙坊

伊藤専九郎

同福蔵坊

片岡権平

同福泉坊

松本嘉六

同頼現坊

宮本嘉平

同善了坊

成川善七

IV西巖殿寺の誕生

1 西巖殿寺

\*山上より本堂・山王堂・乙護堂を衆徒御祈祷所跡に移転

①法雲寺：

i 野坂帰水

葦北郡田浦・法雲寺⇒比叡山延暦寺末西覚院：慶長5年（1600）開基

田浦の阿蘇宮及び白山宮の社僧兼務：神仏分離⇒檀家6戸

明治9年（1876）9月野坂帰水移転願⇒同年11月27日許可

ii 厨亮俊

筑後・御井郡出身⇒比叡山西塔勸泉坊・筑後高良山蓮臺院住職

明治維新後、蓮臺院廃寺⇒明治7年蓮臺院再興⇒明治9年野坂帰水後住

明治10年西南戦争⇒4月13日薩軍によって処刑（44歳）

iii 佐々晃道（元学頭坊光徹）

法雲寺より西巖殿寺（阿蘇一山の惣寺号）改称願⇒明治13年許可

明治18年7月死去

iv 比叡山松禅院・佐々木昭俊

明治18年春、西巖殿寺住職兼務

明治18年9月8日 死去（42歳）

v 谷帰（元成満院弘栄）

明治18年冬住職

明治21年11月死去

vi 佐々木昭俊弟子・伊藤顕俊

明治23年阿蘇山上本堂の建設：麓本堂⇒根本中堂

笈仏（カラー写真）

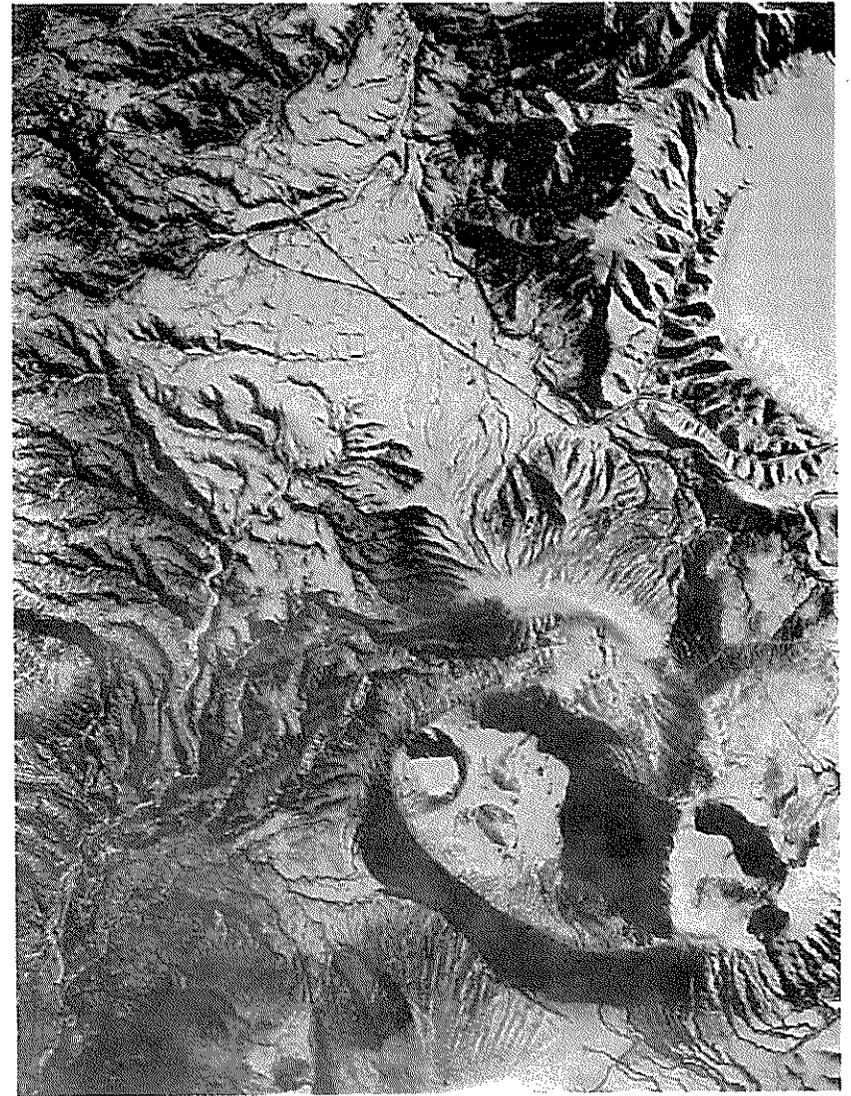
巻首図版



图9 古坊中地形图(2)



图版1「古坊中区中写真(1)」



図版2「古坊中区中写真(2)」



表2 古坊中方形区画一覧表

番号	東西長	南北長	面積	形状	備考	番号	東西長	南北長	面積	形状	備考
1	20	22	440	四角形		47	34	30	775	台形	谷に位置する
2	27	31	600	六角形		48	45	25	1000	〃	
3	24	29	696	四角形		49	45	30	650		北辺に入口あり
4	34	45	1350	台形		50	45	30	825	五角形	西辺に入口あり
5	32	47	1476	五角形		51	39	45	1500	〃	No.45と同一坊か 北辺に入口あり
6	38	48	1800	四角形		52	27	31	600		東辺に入口あり
7	39	54	1715	五角形		53	60	43	1825		北辺に入口あり
8	21	22	—	—	東・南辺不明	54	23	22	425	四角形	
9	22	22	400	五角形		55	53	27	1175	三角形	
10	38	22	—	—	北・東辺不明 No.11と同一坊か	56	13	15	165	四角形	
11	39	72	—	—	南辺にNo.10と共通の入口あり	57	18	27	319	台形	
12	24	23	—	—	北・東辺不明	58	38	28	800	〃	
13	43	65	2476	四角形	南辺に入口あり	59	20	25	400	〃	
14	16	60	960	四角形		60	21	12	211		
15	31	60	1900	四角形	南辺に入口あり	61	30	26	475		
16	35	39	1025	四角形 東 北 部 に 出 口		62	42	35	1375	五角形	南辺に入口あり
17	24	35	730	四角形		63	40	38	1275		北辺に入口あり
18	49	56	2400	台形	南辺に入口あり	64	52	30	800		
19	26	12	287	四角形		65	23	40	760	三日月状	
20	57	87	(4570)	四角形	東・北辺不明 南辺に入口あり	66	60	30	1100	半円形	北辺に入口あり
21	15	30	625	六角形		67	30	50	1175		
22	19	37	473	四角形		68	40	15	375		No.69と同一坊か
23	24	60	1050	ひんがし		69	42	39	1450		
24	75	33	1675		坊内に小丘あり No.29と共通の入口あり	70	53	53	1750		
25	64	19	1200	四角形		71	50	45	1600	三角形	
26	46	32	1225	五角形		72	38	18	525		
27	22	56	1300	四角形	No.26側に入口あり	73	34	45	1400	五角形	南辺に入口あり
28	32	22	550	台形	南辺に入口あり	74	38	27	937	四角形	北辺に入口あり
29	61	54	2825	隅丸方形	東・西辺に入口あり	75	25	68	1100	〃	南辺に入口あり
30	54	20	(900)		北・東辺不明 No.31側に入口あり	76	33	64	1800	半円形	南辺に入口あり
31	100	100	7500			77	30	42	950	台形	南辺に入口あり
32	41	40	1200	台形	南・東辺に入口あり	78	19	36	600	五角形	南辺に入口あり
33	26	26	660	四角形	入口あり	79	40	22	750	三角形	南辺に入口あり
34	44	45	1675	六角形	四辺に入口あり	80	45	29	725		傾斜地
35	37	74	2800	L字形		81	38	46	1325	六角形	
36	43	40	1615	四角形	北西・北東部に入口あり	82	34	27	950	五角形	東辺を道路が横断
37	35	44	1400	〃	南西・南辺に入口あり	83	25	38	825	四角形	
38	25	39	1000	〃	北西・北辺に入口あり	84	37	29	925	五角形	
39	50	90	4300	〃	北辺に入口あり	85	18	16	200	台形	
40	37	50	1600	五角形	北辺に入口あり	86	19	31	575	五角形	
41	40	57	1550			87	25	19	—		南辺不明
42	31	38	1150	四角形		88	51	54	1775		北辺に入口あり
43	19	24	425	〃	西辺に入口あり	89	33	30	900	五角形	
44	38	72	1850		東・西辺に入口あり	90	30	24	600	四角形	
45	20	12	280	四角形	北と同一坊か 東辺に入口あり	91	37	14	820		
46	30	44	1050	五角形	南西部に入口あり	92	73	60	3100	隅丸方形	

( ) は推定値・長さの単位はm・面積の単位は㎡

图 12 弘治二年（1556）逆修碑拓本



图 13 古坊中出土遺物（1）

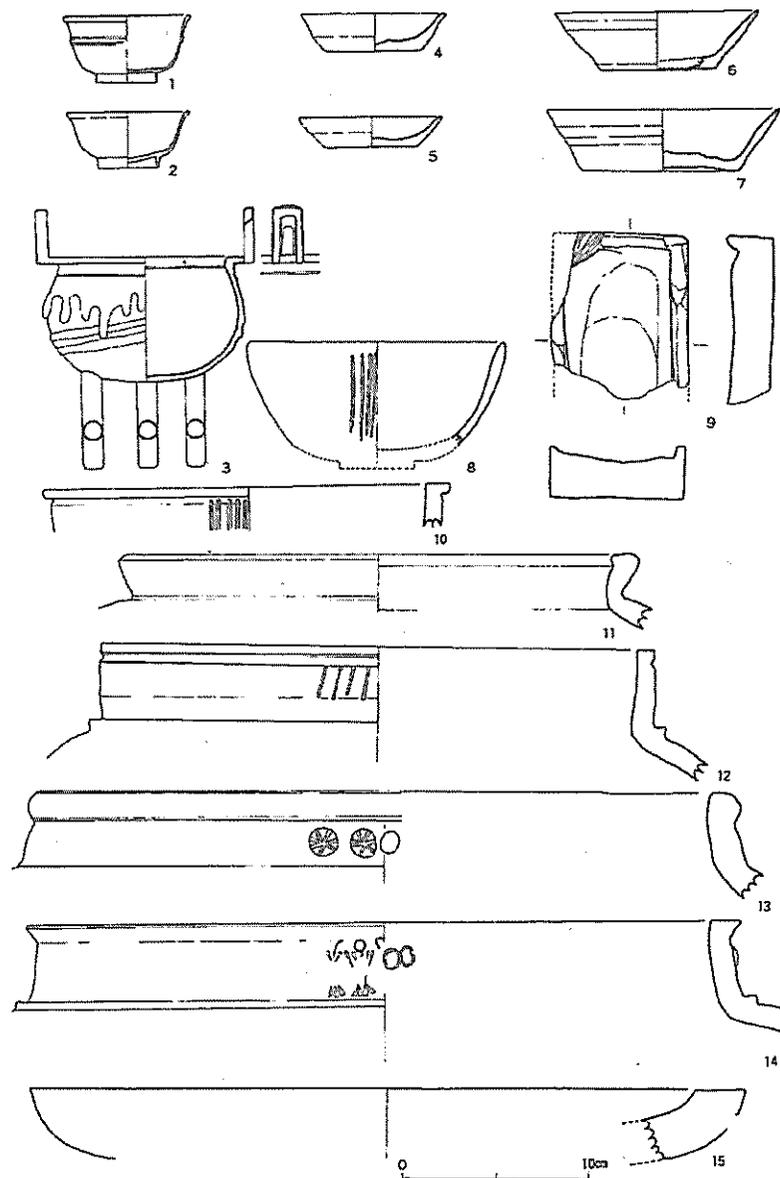
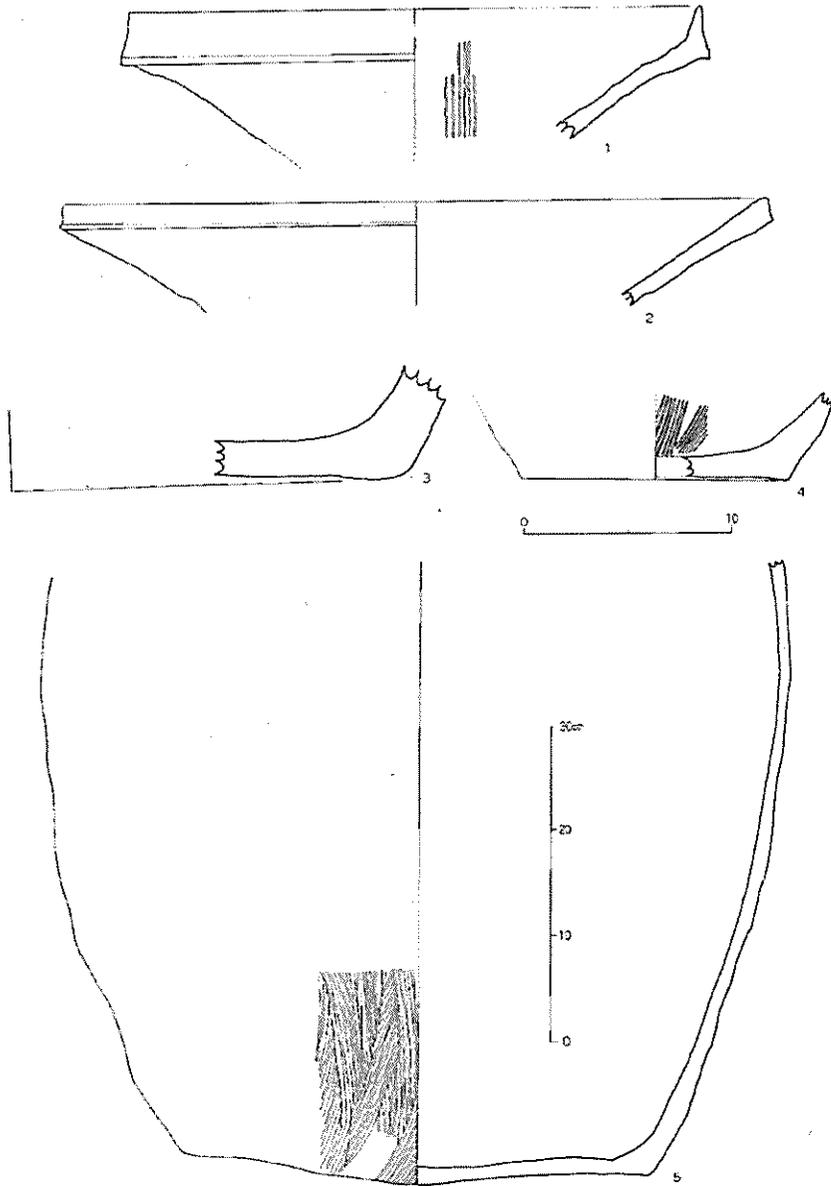
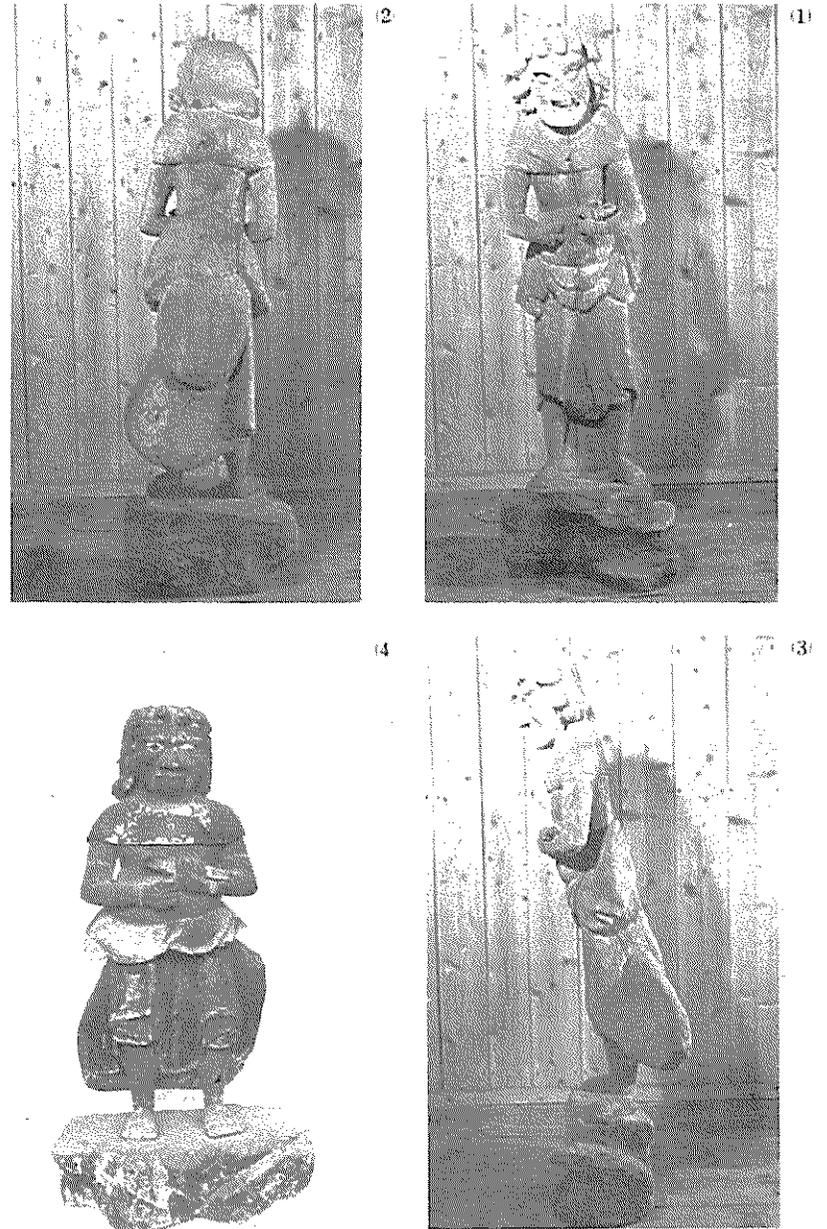


図14 古坊中出土遺物(2)



図版19 山上本堂の乙護法(1)(2)(3)・西巖殿寺の乙護法(4)



図版 50 豪潮の宝篋印塔



図版 51 豪潮の宝篋印塔実測図

